



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 春季号<第143号> (令和7年4月15日発行)



【都城IC側から乙房IC方面】



【乙房IC側から都城IC方面】



ウォーキング大会の様子

高規格道路「都城志布志道路」全線開通

高規格道路である「都城志布志道路」は、宮崎県都城市と鹿児島県曽於市を経由して鹿児島県志布志市に至る延長約44kmの自動車専用道路です。この道路は、平成6年に地域高規格道路に指定され、国土交通省、宮崎県、及び鹿児島県が事業主体となり、平成25年度までに全区間が事業化されこのほど全線が開通しました。

「都城志布志道路」は、宮崎自動車道都城ICと東九州自動車道志布志ICや志布志港（中核国際港湾、国際バルク戦略港湾）といった拠点間を結ぶ広域道路ネットワークが形成され、圏域の均衡ある発展を担うとともに、「防災」「経済」「医療」の機能強化に特に効果があると期待されています。

宮崎県側で最後の未開通区間だった都城IC～乙房IC（5.7km）の開通に合わせて、2月9日には開通記念のウォーキング大会が開催され、親子連れなど約3200人の市民が参加、思い思いのペースで開通する区間を歩いて楽しみました。

みつとめ やすひろ
満留 康裕（建設、総合技術監理・宮崎）
（資料引用：国土交通省宮崎河川国道事務所）

目次

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
若手技術士の声	4
修習技術者の声	5
土木遺産シリーズ（39）	6
ミニ特集	7

次

中央・統括本部情勢	11
委員会・部会報告	12
支部だより	18
CPD報告	19
会員ニュース	20
技術士全国大会（熊本）	21
協賛団体会員	23

巻 頭 言

おおいたの土木未来（ときめく）県土づくりを目指して

大分県土木建築部長 ^{ごのたに} **五ノ谷** ^{せいいち} **精一**
（建設、総合技術監理・大分）



日本技術士会九州支部の皆さまにおかれましては、科学技術に関する技術的専門知識や豊富な実務経験などにより、今般の様々な社会課題の解決に向けてご尽力されていることに深い敬意と感謝の意を表します。

令和6年元日に能登半島で巨大地震が発生し、その甚大な被災状況に目を覆うばかりでした。その後本県周辺でも豊後水道沖地震や日向灘地震が発生しましたが、幸いにも大きな影響はなく胸をなで下ろしていたところ、梅雨前線による災害や8月末には西から東にUターンするように県下を縦断した台風10号により県下各地に大きな被害が発生しました。特に台風10号は国東半島を中心に短時間で猛烈な降雨となり、県管理の安岐ダムで緊急放流を行うなど、各地で浸水被害をもたらしました。一方、これまで取り組んできた河川改修等の成果も発現しました。過去、大規模な氾濫が起きた八坂川や津久見川では、その総雨量を今回上回ったものの浸水被害はありませんでした。現在、県土の強靱化に取り組んでいますが、こうした治水効果を目の当たりにし、今後も県民の安心・安全を確保する防災・減災対策の重要性を改めて感じたところです。

また、令和7年1月には、埼玉県八潮市で流域下水道管路の破損による道路の陥没が起き、県民生活に大きな影響を及ぼす事態となりました。本県では県管理の下水道はないものの、こうした災害が発生しないよう県下市町村で緊急調査が行われています。対岸の火事ではなく他山の石として、橋梁やトンネルなど社会インフラの老朽化対策にも計画的に取り組んでいく必要があります。

一方、未来に向けた社会インフラの整備が各地で着実に進んでいます。広域道路ネットワークの整備においては、県北西部の中津市と日田市を結ぶ中津日田道路の工事が本格化しており、そのうち「日田山国道路」の1号トンネルでは避難坑に続き、本坑の掘削も始まりしました。また、熊本と大分を結ぶ中九州横断道路でも「竹田阿蘇道路」で槌音が響くなか、残る県内の未事業化区間である大分宮河内～犬飼間では、環境影響評価の手続きが開始され、事業化の道筋が見えてきました。また、こうした陸路と海路の結節点となる港湾では、大分港大在西地区の新RORO船ターミナルと臼杵港下り松地区の新フェリーターミナルにおいて岸壁が1バース完成し、令和7年度早々に供用を開始します。まさに「九州の東の玄関口」として人やモノの流れの拠点づくりに弾みがついているところです。

こうしたなか、昨年9月、大分県の今後10年間の県政運営の指針となる長期総合計画「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」が策定されました。私たち土木建築部においても軌を一にして、この長期総合計画と連携し、社会インフラ分野を中心とした長期計画である「おおいた土木未来（ときめく）プラン2024」を9年ぶりに策定しました。この長期計画は策定や改定のたびに、これまでの成果を振り返りつつ、未来の実現可能性を検討し、現在を生きる我々が何をすべきか部の職員一人ひとりが議論を重ね、近い将来のあるべき姿を認めてきました。県の職員や組織は新陳代謝を繰り返しますが、「おおいた土木未来プラン」はその時々において辿るべき道程を示す、土木建築部の基幹となる長期計画です。

今回、新たな長期計画の策定に向けた議論の出発点は、やはり基本理念である「生命（いのち）を紡ぐ県土づくり」です。過去の災害等による教訓を踏まえ、被害を最小限に留められるよう「安心な暮らしを守る強靱な県土づくり」を着実に推進します。また都市環境の形成や子育て世帯への対応、ツーリズム支援などに取り組む「元気で快適に暮らせる地域づくり」、道路や港湾などの交通ネットワークの整備をはじめ、人づくりや建設DXを推進する「おおいたの未来を創造するネットワークづくり」にも取り組んでまいります。

なお、「おおいた土木未来プラン」の巻末には、今回の策定に合わせて見直しを行った「土木未来宣言2024」が掲載されています。これは、土木建築行政を進めるために部の職員の「使命」や「心得」などを明記しているものです。所属全員でこれらを共有し、県民からの負託、期待に応え続けてまいります。

今後も、県民一人ひとりの声を原点に、安心な暮らしを守り、元気な地域づくりと未来を創造する県土づくりを進めてまいります。

アウトプットのすすめ

鹿児島県支部長 い うち よしひと 井内 祥人
(フェロー、森林、博士(農学)・鹿児島)



1. はじめに

趣味のクラシック音楽鑑賞歴は半世紀を超える。現在、自宅にレコード272枚、CD291枚を所有している。勿論、クラシック音楽のみである。十数年前、それまで所有していたレコードのうち500枚ほどを音楽好きの姪に譲った。レコード、CDともに聴くのだが、聴く機会は圧倒的にCDが多い。それはCDが手軽に扱えるからである。CDはケースから取り出し、コンポに差し込めば、音が鳴り始める。聴き終わるとEJECTしてケースに収める。一方、レコードは、ジャケットの袋から盤を取りだし、静電気防止用のスプレーを盤面にかけ、ベルベットのクリーナーで盤面をきれいにしてターンテーブルに置く。そして針を置くと音が鳴り始める。音楽を聴くまでの手順が多い。聴き終わると聴き始めの時と逆の手順でジャケットに納める。従って、レコードは休日に聞くことが多い。

CDのように手軽に操作する手順は、現在の技術士CPD管理制度の時間確保方法と類似している。

2. 継続研鑽の現状

技術士法第47条の2「技術士等の資質向上の責務」では「技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るように努めなければならない。」と記載されている。この「責務」とは自分の責任として果たさなければならないことを言う。この法律を受けて2023年3月改正された技術士倫理綱領の10（継続研鑽と人材育成）の（1）では、「技術士は、常に新しい情報に接し、専門分野に係る知識及び資質能力を向上させる」と記載されている。さらにCPD実施形態は10通りに分類されている。インプット形態3通りとアウトプット形態7通りである。

このため、技術士の多くは年間50時間のCPD時間確保のために、（1）講演会等の参加、（3）企業内研修、（6－5）自己学習などの手軽なインプットに励んでいるのが現状である。私がCD操作と同様、講演会等の参加、自己学習は手軽な時間確保手段と考えているゆえんである。

3. 「資質向上」は誰が判断するのか。

しかし、講演会等の参加等、インプットだけを頼りにしている技術士の「資質向上」は誰がどのように判断するのだろうか。まさか、本人がインプット活動だけで「資質向上が図られた」と自画自賛しているわけではあるまい。インプット主体の資質向上は現在のCPD管理制度にあると考えている。CPDの実施形態を問わず単に時間（50時間以上）だけで認定する制度の建て付けではないかと考えている。

私は「技術士の資質向上」は客観的に評価されなければならないと考えている。そのためには評価を伴う複数のアウトプットは必須であると考えている。

4. 技術士のアウトプット

九州本部所属の技術士1,600人のうち、アウトプットを行っている人はどれくらいいるだろうか。

推定すれば、本誌の執筆者を毎号15人とするとなん年60名、大学高専の講師等10名、各県支部のCPD講師50名、その他諸々で160名、全体の1割になる。9割の技術士はインプットのみで資質向上を図ったつもりになっているということになる。

アウトプットの内、客観的な評価が最も厳しいのは学会の査読付き論文であると考えている。査読は複数査読者との半年から1年間にわたる議論である。一種の「バトル」と言っても過言でない。私は、この10年間で5本の学会論文を投稿した。しかし、このうち1本は査読者との議論がかみ合わず、取り下げざるを得なかった。投稿した論文に対して様々な角度からの厳しい指摘は極めて有意義であった。査読者と議論を重ねている時は、自分の考察力等が鍛えられていくのを実感した時間でもあった。

5. おわりに

年が改まり、また新しい論文を執筆中である。投稿まで約1年を要す。インプットのみに頼っている読者諸兄も、今年は脱皮する已のように複数のアウトプットに挑戦する年にしたらいかがであろうか。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail : iuchi@chuuou.jp)

労務費調査から

たかあぜ ひろし
高畦 博

(建設、総合技術監理・鹿児島)



1. はじめに

公共事業労務費調査（以下「労務費調査」）に従事する機会があった。労務費調査は公共工事などに従事する作業員の労務単価の実勢を調べる調査である。公共工事を発注するために予定価格調書を作成するが、労務単価は入札価格調書を積み上げていく上で基本となる。この調査結果をもとにして、翌年の公共事業などでの労務単価が設定されると聴く。労務費調査では、普通作業員、一般世話役、運転手、塗装工などおよそ50職種にわたる作業員を対象にして、公共工事に従事する企業から個別に聞き取り調査をおこなう方法で進める。本文では調査概要やこの調査で感じたことなどを述べてみたい。

2. 労務費調査の進め方

労務費調査の手順は次のようにして進める。発注者となる官公庁から調査月に実施している工事や企業が提示される。提示された工事に従事している階層構造となるすべての企業に調書の作成を依頼する。この調書に従事している個々の作業員の当月の給与、各種手当、労働時間数、有給休暇時間数、年間の労働日数、法定福利費など、また企業の年間就労日数などを記入してもらう。調査会社は作成された調書に記載間違いがないかを確認する。確認作業では企業の担当者から賃金台帳、出勤簿、年給処理簿、工事日報などの原本を提示してもらい確認する。土木工事、建築工事などを対象にしている。建築関係工事では、大工、配管工、左官工、内装工など多くの職種から構成されているので、対象企業が多くなってくる。

調査方法について、従来は調査会社の担当者が、会場にて企業の担当者と対面で調書と原簿を突き合わせて確認する方法でおこなっていた。会場までの往復時間や待機時間に半日近くかかる場合もあったと聴いている。しかし新型コロナウイルス感染拡大によって、対面での調査が困難となった。そこで書類調査による方法で実施することになった。私はこの時期からかわることになった。この方法では、ガイドラインによって、調書に記入した個人が特定できないように原簿の氏名などの部分にマスクをしてイニシャ

ルを上書きしたものを原簿の写し（原本資料）として調書とともに調査会社に郵送して内容確認する方式となった。さらに一昨年には原本資料を加工した上にスキャンして指定サーバーにアップロードし、調査会社はこれをダウンロードして調査確認する方式に変更されている。対面調査では、原本を提示するだけで済んだが、書類調査では原本の写しを加工して印刷・送付といった作業が必要となり、従来よりも企業の負担が増えているのではと感じている。

3. 調査からみえること

送付されてきた調書や原本資料について、中には50枚以上になる場合があった。これらの資料を前にすると、企業の担当者が多くの時間と労力を費やして作成していただいたことに謝意を感じざるを得ない。一方、労働基準監督署の調査と勘違いされる事例や、調査資料の提供を拒む企業も少なからずあった。

調査資料を概観して気づくことがある。元請企業は、従業者規模が300人以下とする中小企業がほとんどであるが、下請企業においては、20人以下の小規模企業が多いことである。どの企業も人手不足の影響、物価上昇や雇用確保の観点から給与に調整手当などを加算している事例が見受けられた。ただ小規模企業では、社会的な要請に対応していく中で、厳しい労働時間に対応しているのではと推測される事例もみられた。更に10名未満の企業では、経営者自らが現場で陣頭指揮をとって従事していると推測されるケースもみられた。

元請企業では、最新の業務管理ソフトを活用して、勤怠管理、賃金管理などを統合的に管理運用されているが、小規模企業になると、出勤簿、年給処理簿、工事日報などの簿冊を手書きメモで管理されている事例も多くあった。提出資料を確認するため、依頼したメールの返信時刻は夜間であった事例もあった。調書作成にあたって厳しい環境の中での作成に改めて感謝する次第である。

4. おわりに

労務費調査は、調査に関わったものの一人として改めて重要な調査であると思っている。物価版などの印刷物では単価の金額だけが表面に出てくるが、その数字の裏側には、建設業に従事する多くの企業の協力があることを心に届めておきたい。関わったものとして、この調査結果が建設分野に関わる様々な企業の生産性向上、労働環境の改善に寄与するものになることを願っている。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail : hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

若手技術士の声

技術士受験体験 とこれから

お がわ まさふみ
小川 征史
(建設・熊本)



私は、地元高専を卒業後、熊本県に土木技術職として入庁し18年目になります。これまで、道路工事や河川工事などの工事監督業務に携わってきました。

技術士取得は30歳を過ぎたあたりから少しずつ意識するようになりました。仕事上も中堅に差し掛かり、知識の習得が必要と感じたからだと思います。少しずつ勉強を開始し、昨年度に技術士2次試験に合格することができました。

技術士2次試験の勉強では、当初はすぐに論文を書けるようになるだろうと甘く考えていましたが、全く筆が進みませんでした。知識量の不足が原因と考え、情報誌や国交省HP、道路構造令などに目を通して、幅広く知識を増やしていくことを心掛けました。そうすると、段々と論文の形を成すようになり2回目の受験で何とか筆記試験を突破することができました。

口頭試験では、想定問答をなるべく多く作成して繰り返し練習しました。また、SUKIYAKI塾さんの模擬試験を2回受講し、自分では気づけなかった足りない部分を補填して頂きました。そのおかげで、試験本番はスムーズに答えられ、晴れて合格することが出来ました。

試験勉強を通じて、施設老朽化の加速、人材不足、働き方の変化、少子高齢化などの社会情勢の変化に、これからしっかりと対応していく必要があることを痛感しました。加えて、そういった複雑な社会問題に対応していくには、自らの資質（リーダーシップ、コミュニケーション、マネジメントなど）を高めていく必要があるとも感じました。

正直、自分の業務に置き換えると、考えることが多くて頭が痛くなってしまいましたが、業務とプライベートを両立させて、楽しみながら業務を進めていくことが私の理想です。そういったイメージの技術士像を目指し、少しでも近づけるよう、先輩方のノウハウや知識を吸収しながら成長し、社会貢献できればと思います。よろしくお願いいたします。

所属：熊本県芦北地域振興局土木部工務課
(E-mail: ogawa-m@pref.kumamoto.lg.jp)



九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

活動の三本柱

研鑽活動

- ・CPD
- ・見学会
- ・夏休み自由研究
- ・公開講演会
- ・研鑽会 など

普及活動

- ・技術士制度説明講義
- ・JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)
- ・女性技術者・女子学生懇談会 など

交流活動

- ・合格祝賀会
- ・納涼会
- ・忘年会
- ・ゴルフ大会 など

応募の詳細は
こちらから！



QRコード

問い合わせ先: kyusyu.seinen.pe@gmail.com 担当: 大川

応募フォームURL: <https://bit.ly/3fxXsnv>

修習技術者の声

2つの目標

みやじま けいすけ
宮嶋 佳祐
(建設(修習)・福岡)



私は建設会社に勤務し、現在は土木技術者として建設工事に携わっています。実は大学では、経済学部であったため、入社当初は事務職として働いていました。しかし、トンネル現場への常駐経験が私のキャリアに大きな転機をもたらしました。もともとダムや高層ビルなど大型構造物に関心があったのですが、トンネル現場でのモノづくりのスケールの大きさを目の当たりにし、次第に技術職に興味を抱くようになりました。そのタイミングで当時の所属長からの誘いもあり、事務職から土木職へと転身することとなりました。

実際に技術職として働き始めて痛感したのは、土木を専門として学んでいないことによる力不足でした。

他の技術職員と違い、土木に関係しない文系出身

のため、基礎的なところで躓くことがありました。技術士に興味を抱くきっかけとなったのもこの躓きがきっかけでした。

技術士へ挑戦することで、土木技術や技術者倫理について学ぶことになるので、自分に不足している知識やスキルを身に着けることにつながります。技術士を目指す中で学んだことを日々の業務にも活かしていきたいと考えています。また社内においても技術士が土木技術者として1つのゴールとなっていることもあり、自らの技術スキルを証明する術として挑戦したいという思いもありました。

技術士取得は目標の一つですが、私にはもう一つ文系人材の壁を突破したいという目標があります。土木技術者は理工系出身者が多く、文系出身者が技術職になることは稀です。技術職へ転向したばかりの私はまだ手探りの状態ですが、文系で得た知識と土木技術を融合させ、新たな視点で業務に取り組むことで貢献できるよう努力していきたいと思っています。

今後も技術士を目指しながら、土木技術者としての成長を続けていきたいと思っています。

所属：株式会社熊谷組九州支店
(E-mail: keisuke.miyajima@ku.kumagaigumi.co.jp)

異分野の技術者を 目指して

ゆ う ら てつひろ
湯浦 哲大
(建設(修習)・鹿児島)



私の主な仕事内容は、建設現場の施工管理である。学生時代は、現在と異なる分野で、船舶の復原性や推進性について励んでいた。大学院博士後期課程まで進学したが、将来像の消失や金銭的な不安等の複数の要因が重なり、中途退学し、地元鹿児島に戻って現在に至る。2025年4月で3年目となるが、社会人としてのスキルだけではなく、建設分野の基礎知識や専門知識も含め勉強することが絶えない生活をしている。

学生時代は研究活動に自分なりに精力を傾けていた。そのため、技術士の皆さんに大変失礼であるが、学生時代はその存在について、あまり理解していなかった。また、今現在のように、技術士取得を挑戦するとも考えていなかった。

そんな私が技術士をとるきっかけになったのが、現在の会社に就職したことである。就職直後から与えられた仕事を機械的に処理するだけではなく、乏

しい専門知識をカバーするために資格を取得しようと考えた。資格をピックアップした中で、その1つとして挙げたのが技術士であった。技術士の1次試験は、実務経験年数に関係なく受験できるのを知り、勉強するのに丁度良いと考え、合格に向けて取り組むことを考えた。しかし、専門知識のない私には、なかなかの苦行であった。初めて問題を解いたとき、殆どの問題で脳内イメージが“?”のオンパレードであった。そのため、受験1ヵ月前は専門分野に時間の8割を当てて勉強に励んだ。その一方で驚いたのが、適正科目の出題内容である。技術士に求められる立ち位置や振る舞いが、大学院で学んだ研究者に求められるものと極めて類似していたことである。現在の業務は大学院での研究と異なる分野ではあるが、大学院での研究生活は、技術士としての考え方を潜在的に成長させるのに必要な時間であったと理解しているところである。

今現在、必要な業務経験年数については大学院の経験がある為、受験要件の達成は目前である。技術士取得のため、まだまだ乏しい専門知識をより一層深めながら、学生時代に研究活動をしていた経験と建設業の人間として施工管理する経験を良い形で融合し、良い技術者になれるよう精進したい。

所属：株式会社植村組
(E-mail: yuura.tetsuhiro.ua@uemuragumi.co.jp)

眼鏡橋～長崎大水害と 中島川の石橋群の保存～

うら せ としろう
浦瀬 俊郎
(建設・長崎)



1. はじめに

江戸時代の長崎は、中島川河口に造られた出島オランダ商館を中心に異国情緒豊かな商業都市として繁栄した。この時期、中国技術を取り入れ架けられた眼鏡橋をはじめとする中島川石橋群が1699年に完成するなど、長崎の街並みは整備され鎖国体制のなかでも独自の発展を遂げた。中島川沿川には多くの土木遺産があり、今回は中島川的眼鏡橋等の石橋群について紹介する。

2. 中島川の石橋群と長崎大水害による被害

中島川には、わが国最古の石造りアーチ橋である眼鏡橋（国指定重要文化財）をはじめ、主に江戸時代前半に架けられた11の石橋群があったが、1982年に発生した長崎大水害で被災し、11橋のうち6橋が流出、眼鏡橋を含む3橋がアーチ部を残して一部流失した。



写真-1 被災した眼鏡橋



図-1 中島川の石橋群の被災状況図

3. 長崎防災都市構想策定委員会と中島川治水計画

「長崎大水害を踏まえて、総合的な防災対策の上に立った長崎の都市づくりをいかにあるべきか」との県知事からの諮問に対し、市民の代表者や有識者等で組織する「長崎防災都市構想策定委員会」が設置され1年余りにわたって検討が重ねられた。その結果、上流にある西山ダム・本河内ダムの改築による洪水調節と河川改修を組み合わせた中島川の治水計画が決定された。

また、同時に眼鏡橋は、市民の保存への意

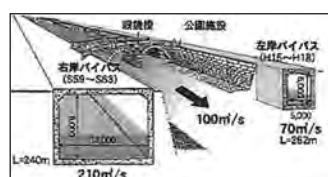


図-2 眼鏡橋地点流量配分図

向と河川の模型実験の結果を踏まえ、現在の位置にそのまま保存することが決定し、眼鏡橋付近の洪水を安全に流下させるため、兩岸にバイパス水路が計画された。

4. 眼鏡橋復元のための中島川バイパス水路工事

右岸側バイパス水路は、用地が長崎市の都市公園であったことから被災から2年後に着工でき、特殊な連続地中壁工法により1988年に完成した。その際、右岸バイパスおよび上流石橋群の区間の護岸工事は、施工および景観面を考慮し巨石積工法を採用し、また、流失した一覧橋等の石橋群は河川断面を確保し新たな石橋のデザインで復旧された。

一方、左岸側のバイパス水路は、多くの民家兼商店が連なっていたことから、その移転補償を経て2003年から着工し、騒音対策に優れた新オープンシールド工法により2006年に完成した。その際、左岸部に残る昔の石積みの景観やバイパス水路の開口部を小さく見せる工夫など、長崎県独自の「環長崎港地域アーバンデザインシステム」による景観デザインの調整を行い施工された。



写真-2 バイパス水路下流部



写真-3 眼鏡橋と護岸



写真-4 一覧橋



写真-5 中之橋

また、上流にあるダムの改築による洪水調節により、眼鏡橋の他にも下流にある出島橋（日本最古の現役鉄製道路橋）や上流にある一之橋・中之橋・鎮西橋（昭和初期の鉄筋コンクリート橋・国登録有形文化財）等は架け替えることなく保存された。

5. おわりに

現在も眼鏡橋が架かる中島川を観ることができるのは、眼鏡橋の復元と治水対策のトレードオフが関係者の努力により解決できたからである。私は、この中島川の石橋群の歴史を語ることで、長崎大水害のことも後世に継承していきたいと思う。

資料・写真提供：長崎県土木部河川課
所属：東亜建設技術株式会社
(E-mail : t.urase@toa-ct.co.jp)

自由研究

た やま りょういち
田山 良一
(応用理学・福岡)



子どもの頃に自由研究をした思い出はありますか？私の記憶を遡ると「ものの燃えかた」と言う題材で自由研究した記憶が思い出されます。小学校1～2年生の頃、夏休み終盤になって母親に尻をたたかれながら何をやれば良いかも分からず、目の前にあった糸や紙など燃やして、その様子を観察してまとめました。正直やつつけ仕事だったのですが、なぜか学校で選ばれ地域で表彰されたという記憶も蘇りました。

私には小学校4年生になった娘がいます。保育園の年長組の頃から単身赴任生活となったため、一緒に過ごせる時間が限られているのですが、小学生になってからの夏休みは一緒に自由研究に取り組むというイベントが恒例となっています。1年生の時は「はっぱにはすじがいっぱい！！なんのためにあるの？」、2年生の時は「なんでつぎの日の天気かわか

るの？気圧ってなあに？」、去年は「シロップを入れたアイスティー下だけあまくなるのはなぜ？」というタイトルで取り組みました。そもそも娘の通う小学校では自由研究は必須ではないのですが、配られた自由研究の取り組み方がまとめられた資料を読むと、タイトルの付け方を工夫したりなど興味深い内容が書いてありました。研究内容は、模造紙1枚と原稿用紙14枚以上にまとめるなど、なかなかハードな内容のため自分の課題ではないものの毎年夏になると気が引き締まります。一方で、2年生の時は無理かもしれないと思いながら連絡してみた地方気象台に個別見学を受け入れて貰ったこともあり、娘以上に興味をもって取り組んでしまう自分もいたりします。

夏休み後に催される地域の自由研究の作品展では、たくさんの子供たちの夏休みの成果を見ることができ楽しみの一つとなっています。中には驚くような作品もあり、この中に将来の技術士の卵がいるのかなと思いつつ見学しています。今年の自由研究のテーマはいったい何になるのか、娘の興味次第ではありますが、また一緒に取り組んでいこうと思います。

所属：株式会社ウエスコ
(E-mail : r-tayama@wesco.co.jp)

政治と投資

かわ の こうし
河野 公志
(情報(修習)・北九州)



2024年は新NISAがスタートした。長年投資を行っている私からすると非課税投資枠が拡大されたことは非常に嬉しいことだった。

投資歴は約25年になるが、始めたきっかけは「老後、年金は期待できないだろうな」という思いからであり、現時点では早めに行ったことで功を奏している。投資には一定のサイクルがある。しかし、世界情勢の変化・災害・時の指導者等の変化により想定外の大暴落がおこることがある。これは予測できない上に損切りのタイミングが難しい。9.11同時多発テロ、東日本大震災、新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻等は大きなショックを受けた。新型コロナウイルスの時は全業種において厳しい状況であり、年初来安値を更新するとついつい増資したくなり、ギャンブル依存症みたいな気分になったことを思い出す。

その後、ワクチンの普及により景気は回復し、増資分は結果的に成功したが、底（尻尾）を見分けるのは至難であることに変わりはない。投資の儲けは魚に例えられるが、なかなか尻尾で買って、頭で売り、身だけを食べる理想に合う機会は少ない。

2024年11月7日に世界第2位の温室効果ガス排出国であるアメリカの大統領がドナルド・トランプ氏に決まり、2025年1月20日に第47代大統領に就任した。投資としては株高が見込まれチャンス時期ではあるが、今後の政策（関税等）によっては投資先変更を検討しなければいけない。また、今まで努力してきた地球温暖化対策が後退する可能性が高くなってしまうのは不本意である。ウクライナ侵攻・台湾有事・北朝鮮の核開発等、日本周辺を含め第3次世界大戦も起こりそうな雰囲気であり、このような地球規模の大問題が目前にある中、各国の指導者が同じ方向を見ていないのは非常に残念である。

現状では、日米首脳会談はうまくいったように見えるが不安要素も多い。防衛・AI関連銘柄に目を向けているが世界平和・持続可能な社会のために投資できるような世の中になって欲しいと願うばかりである。

所属：福岡芝浦電子株式会社
(E-mail : kawano@fukushiba.co.jp)

高額医療費制度を利用 して思うこと

たかつか たね お
高塚 種雄
(建設・佐賀)



今から約3年前、あと少しで70歳と言う時、腹部に大動脈瘤が見つかり、精密検査を佐賀大学医学部付属病院にて受けた。その結果、3年以内に破裂する可能性があり早急に手術をする必要があるとのこと。手術の方法は人工血管置換術とステントグラフト内挿術の2種類があり、大動脈瘤の位置や自分の血管の健康状態を考慮してから決定すると告げられた。約1ヶ月を要して検査した結果、どちらでも手術は可能であるが前者は体力が術後3～4割落ちるとのこと、後者は新しい手術方法で佐賀大学でも100例を少し超える程度であると伝えられた。後者の手術方法は腹部に手術の跡が残らないので多少の不安はあるものの迷わず後者を選択した。2022年1月19日に約5時間半を要し無事手術は成功し約2週間後退院することとなった。退院する際、費用を清算する必要があると請求書を見てびっくりした。

なんと私の手術や療養に要した費用は700万円を少し超える金額であった。でも、支払いは高額医療費制度を利用したので、7万円を少し超える程度。自分の命を永らえるために700万円を超える高額な金額が費やされたのかと考えさせられた。そのため、高度な医療技術を利用し命をもらったので、体力が戻り次第、技術士と言う立場を活用し社会貢献をしなければと思い至った。

しかし、体力が戻りつつあった1年後、今度は長年連れ添った妻が脳内出血を患い、佐賀大学の高度救急救命センターに運ばれた。症状は芳しくなく治療の手だてがない状態であり、いつ再出血がおきかわからないと告げられた。一度は症状が落ち着いたため他の病院に転院したが、発症から約6か月後に再々出血をおこし全身の機能を喪失し帰らぬ人となってしまった。妻亡きあと茫然自失になり、何にも手がつかなかったが、昨年の暮れよりやっと少しずつ会合の場にも出向けるようになってきた。妻の病気治療にも高額医療制度を利用し、夫婦で多額の医療費補助のお世話になった。今後は少しでも地域社会また企業に恩返しができるよう務めていかなければと思っている。

所属：株式会社 オーエム
(E-mail: omnet@lake.ocn.co.jp)

まつばら君が走る 九州めぐり

まつばら たけし
松原 武志
(建設・長崎)



◆はじめに

みなさまはどのような趣味をお持ちでしょうか。わたくしはオートバイが好きで、休日にはよくオートバイで出かけます。

◆わたしとオートバイ

8年前に大型自動二輪車の免許を取得しました。今のオートバイは、3台目で、去年購入しました。排気量は670ccで、スクーターなのに6速ミッションが搭載されているとても珍しい車種です。このオートバイで、長崎、熊本、佐賀、鹿児島、大分、福岡と九州のツーリングスポットを回りました。

◆今後行ってみたい所

技術士だより・九州では、所属県支部の土木遺産を紹介する記事があります。オートバイで地元の土木遺産を巡って、記事にしたいと考えています。

◆最近のツーリング

下の写真は、長崎県内の川棚町へ行った時のものです。防砂林の松がとても美しいです。とても寒くて、途中何度もコンビニへ立ち寄ってドリップコーヒを飲んで温まりました。



◆おわりに

オートバイは、快適性ではエアコンの付いた自動車にかないませんが、あえて四季と向き合い、不便を楽しんでみるのも良いかなと思っています。

所属：株式会社九州建設計画エンジニアリング
(E-mail: matsubarakun@kyudai.jp)

海外 情報教育支援活動

なかむら ほしろう
中村 星朗
(建設・大分)



58歳、人生一段落。私の第2の人生の始まりです。2005年、私の英国の知人からPhilippinesバタングス州タナワン市の小学校を支援してほしいという依頼があり、即、現地訪問しました。まず初めに子供たちの里親制度を利活用して28名の里親となりました。直接お会いすることはできませんが、手紙のやり取りで子供達の成長を知ることができました。そのほかに、図書館づくり等、日本から英語版の古本を寄贈していただき8校の図書館を作ることができました。また、先生の要望によりPCの寄贈を行いました。

このような情報がPhilippines全土に広がりました。ただ、ドネーションだけでは将来の展望が見えません。そこで、最も熱心にお願ひされたブラカン州ギギイント公立コンピュータカレッジのイコー先生とギギイント市長がカウンターパートとなり、毎年10月訪問して情報教育支援活動をする事とな

りました。

その手段として、九州工業大学情報教育支援士をメンバーとするNGO法人KIT情報教育支援研究会を設立し、本格的に海外支援をすることになった。メンバーは、九工大からの依頼で飯塚市の教職員を対象としたiPad、PC、スマホ等の指導と、子供達にはビジュアルプログラミングなどの指導をして頂きました。

当時情報格差（デジタルディバイド）による国家間の貧困が問題となっていました。NGO設立の趣旨の一つである情報格差の是正として、情報教育支援活動のプログラミング講座を開校した。しかしLaptopの不足、デスクトップでは停電がひどく使えない。そのため、Laptopを寄贈して講座を行いました。

富士ゼロックスさんなどの支援により、日本語OSを英語OSに変換し、最終的には130台のパソコンを寄贈することができました。2019年ごろになると、小学校・中学校・高校もPCが整備され、私の役目も、2016年で終わり、後期高齢者となりました。北九州でもやっと、4～5年前からビジュアルプログラミングが導入されました！！

所属：有限会社ITテック
(E-mail : hoshiro2020@psc.bbig.jp)

高校生へのサポート 及びこれから！

いさみ ひでただ
倫理委員会委員 勇 秀忠
(建設・熊本)



技術士だより・九州第142号「ミニ特集」に玉名市の玉名工業高等学校での出前講座と自らのライフワークである熊本日日新聞読者ひろばへの投稿集第二弾（技術士の視点）の自費出版内容を記したことを書かせていただいた。

今回、熊本市の熊本工業高等学校土木課3年生の課題研究として取り組む橋梁メンテナンス授業に、昨年9月から12月まで現地点検に関する授業計5回に渡り、熊本県コンクリート診断士会の会員5名が参加した。現地踏査・点検、グループ発表などに関してサポートした。47橋を調査し、国土交通省様式に沿って記録整理した。

最終回は、生徒からの提言として、「先進技術に対する知識を身に付ける」、「清掃を通じて橋の健全さを保つ」などがあり、参画した熊本市には「橋梁メ

ンテナンスについてもっと学べる機会を提供してもらいたいなどの要望も出た。次年度からも土木科の継続的な課題研究として橋梁メンテナンスの実践が実施されることから、メンテナンスを担う技術者の確保・育成活動に対して、県診断士会としても全面的に応援参画していきたいと意を新たにしている。

話は変わり・・・

52年ぶりに母との二人生活がはじまる。高校・大学・就職、そして結婚、その後の22年間の单身生活と普通ではない人生を送ってきたように感じる。学生時代の思い出から、実社会での苦労や多くの失敗、そして、学生時代からの友人の支えやそれぞれで勤務する会社での仲間の支えなど、やはり周りに支えられてきた人生であったように思う。本当に感謝の言葉しかない。

今後の人生において、寿命は正直分らないが？モットーとしては、「**周りへの感謝と自分らしく生きる**」ということ肝に据えて、技術者人生を全うしたいと考えている。

最後に、母への感謝も忘れず、これまでの分を親孝行できるように、口げんかも絶えないとは思いますがしっかり寄り添って生きたいと思っている。

著作物で恩返し

にし ひでのり
西 英典
(応用理学・熊本)



令和4年4月、ランニング中に急性心筋梗塞を起こし意識不明となった。5日後に意識を取り戻した際、医師から「生存していることは奇跡」と言われた。存命に最も寄与したのは、第一発見者が救急隊到着までの間に連続して行った心臓マッサージの救命措置であった。しかし、救命措置を行った人物については未だ手掛かりがなく、お礼を言うこともできない。

今回、拙著『地質屋が読み解く不動岩・景行天皇伝説と肥後熊本の神話』を出版した。本書は私を救った先の人物に捧げる物語である。他方、本書の執筆のきっかけとなったのは、新聞の連載企画であった。令和3年の約半年間、『熊本日日新聞』で週1回の連載企画「ジオ・ドラマ」で4回の執筆を担当した。取材を通じて、熊本県北部の山鹿・菊池を中心に、阿蘇や県南の球磨・人吉の伝説や史話に触れ、その魅力に引き込まれると同時に、物語の由来

や背景に興味を持った。連載終了後も、現地調査や考古・歴史研究書を手にしていた。当時はコロナ禍でランニングイベントが中止されていたことも幸いし執筆に集中することができた。特に、病後1年は運動も控えて時間もあったため15万字の文量となった。一方、救命措置を行なった人物への謝意も頭から離れることはなかった。

そして、このような機会はめったにないと思い、恩人への感謝を込めて、調査に関連した神社などへの奉納・献本を目指した。当初は、文筆・出版業に関わる親族に相談したが、満足のいく返答は得られなかった。しかし、現在の出版社に連絡したところ、流通販売を視野に入れた編集を行いたいとの申し出があり、今回の出版に至った。残念ながら、昨年の春に、出版を強く後押しして頂いた出版社の代表は他界されたが、代表の意思を引き継いだスタッフのおかげで本書は日の目を見ることができた。本書は現地調査や文献を基に、想像力を駆使した地質屋の目線で熊本県内の伝説や神話の謎に迫ったものである。この本が、私を救ってくれた方々並びに関係者への感謝の証として、多くの方に手に取って頂くことを願っている。

所属：肥後地質調査株式会社
(E-mail: nishi1969@magma.jp)

健康のための 我がスポーツ人生

よしとみ ひさ と
吉富 久人
(農業・鹿児島)



私は、若い頃から健康を意識し、食生活とともにスポーツにも関心を持って過ごしてきた。中学校時代卓球をやっていたこともあり、就職してからはレクリエーションとして職場などでよくやっていた。

そうした中、20歳代後半の離島勤務をきっかけにランニングを始め、30歳代後半からは年1～2回のフルマラソンやその他の市民大会(10km～ハーフ)に毎年数回出場しながらのランニングが日課となった。

特に県内でも過酷なコースと言われるフルマラソン大会には19回(年1回)連続完走したものの、翌年の20回目は発熱のため出場を断念した悔しい思い出がある。一方、2010年大会で2010位となり北海道千歳マラソンに無料招待されるという幸運もあった。その翌年に20回目を完走、その後は年齢に見合った無理をしないランニングを続けようと考えていた。

ところが、その後自分の不注意から腰椎椎間板ヘルニアを発症、暫く運動自体がほとんど出来ない状況となり鎮痛薬とストレッチによる療養に努めた。

数年後、徐々にウォーキングや水中歩行などが出来るようになり、ストレッチを続けながら現在まで徐々に運動量を回復させることができた。

5年前、前職の定年退職を機に、老後へ向けた新たなスポーツ人生プランとして、療養後続けてきたウォーキングに加え、人との関わりがあり屋外でできるものとの思いで、卓球ではなく、以前から興味があつたテニスに挑戦することとした。

約3年間スクールに通い、基本は習得できたと自分なりに判断して退会、直後にシニアの団体に入会、団体からの紹介で1年前に70歳代中心の或る同好会の一員となり、上手なベテランばかりのメンバーから指導を受けながら硬式テニスを楽しんでいる。

テニスは、健康寿命に有効なスポーツと言われており、私としては今後、テニス、ウォーキング、時々水泳を生涯スポーツとし、無理なく楽しく続けることで体力と体型の維持に努め、少しでも長く社会に関わっていききたいと思っている。

所属：鹿児島土木設計株式会社
(E-mail: sk-yossan@ae.wakwak.com)

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

副会長・理事 **田沼 和夫**
(フェロー・建設、総合技術監理、CPD認定・福岡)



2025年6月16日（月）に東京で定時総会が開催される予定です。今回の総会では、定款の変更が議題に上がる予定です。公益社団法人法の改正により、外部理事と外部監事の選任が必須となりました。ガバナンスの不備による不祥事を防止するためです。

定款の第24条に「理事及び監事は、正会員の中から総会の決議によって選任する。」とあります。今回の変更は、外部理事、外部監事を正会員以外から選任できるようにするものです。

定款の変更には、総正会員の半数以上が出席し、総正会員の議決権の3分の2以上の賛成が必要です。

残念ながら例年の総会では、正会員の3分の2の出席はありません。

九州本部の会員の皆さんには、必ず賛否の意思表示をお願いいたします。総会で定款の変更が成立しない場合、猶予措置はあるようですが、違法状態になってしまいます。

統括本部の事務局から周知の同報メール等様々な広報活動があると思います。

技術士会のガバナンスが法律改正によって強化されることへの理解をお願いします。

同時に、総会では、技術士DEI推進宣言が公表される予定です。

これまでのD&Iの概念では現状が改善されにくかったとし、公平性（Equity）が追加され、DEIが広く提唱されるようになりました。Equityは、一人ひとり、スタート地点が違うことを前提に必要な環境やツールを提供することです。

多様・多彩な技術者、技術をつなぐプラットフォームとして、誰もが能力を発揮し、誰もがその人らしく生きられる社会の実現に貢献する。これが技術士DEI宣言の目指す姿です。男女共同参画推進委員会の資料から紹介させていただきました。

私の理事としての任期は6月の総会までです。九州本部役員、会員のご支援に感謝申し上げます。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
(E-mail: tanuma2@bronze.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2024年度第3回 地域本部長会議報告

九州本部長 **佐竹 芳郎**
(建設、総合技術監理・福岡)



2024年12月10日（火）機械振興会館（東京）で開催した2024年度第3回地域本部長会議の概要を報告する。

[統括本部より説明]

1. 公益法人制度の法律改正により、外部理事・監事の設置(2025年4月～)が必要となる。経過措置により行うが、総会で「定款」の改正は会員の2/3以上賛成が必要で、課題となっている。
2. 受験料見直しは、H9年度改正以来据え置きとなっているが、物価上昇等があり、見直しを検討中である。また、受験申込申請・登録手続きのオンライン化を令和7年度から一部を始めるべく準備中である。
3. CPD参加申し込みのキャンセルは、4月から開催日3日前以降はできないものとする。
4. 日本技術士会DEI推進宣言（案）を準備中。パブコメなど経て、5月理事会決議としたい。

[地域本部よりの審議事項及び意見要望等]

1. ハイブリッド講演会における、利用ソフトについて確認したい（中国）
→Teamsとしているが、相手からの発信や応答のこともあり、また、セキュリティも改善されているので他のアプリを使うことは問題ない。（統括本部）

[報告事項]

1. 北海道本部は、第50回技術士全国大会（札幌）（10/4～7、664名参加）の開催報告等があった。
2. 東北本部は、「安全文化」を出版しており、希望者の申し込みを受け付けている。
3. 中部本部は、地域産学官と技術士との合同セミナー（四日市市）（11/5）の開催報告等があった。
4. 近畿本部は、第28回西日本技術士研究・業績発表年次大会（大阪）（12/6～7、127名参加）の開催報告等があった。
5. 中国本部は、第29回西日本技術士研究・業績発表年次大会（広島）（2025年11/14～15）の開催予定報告等があった。
6. 四国本部は、地域産学官と技術士との合同セミナー（徳島市）（10/12、参加者数106名）の開催報告等があった。
7. 九州本部は、内閣府「ぼうさいこくたい2024in熊本」（11/19～20、技術士会ブース来場者約1,000名）等の報告があった。

所属：株式会社新英コアテクニカ
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbiq.jp)

統括本部総務委員会

総務委員会報告

にし い やすひろ
総務委員 西井 康浩
(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2023-25期の第9回総務委員会と同地域小委員会が12月18日に開催されました。今回は地域選出の総務委員も統括本部に参集しての対面形式で開催されました。

まず地域小委員会では、主に次の2議案について、意見交換が行われました。

1-1.地域組織における「技術士会規則に関する意見聴取と運用方法」について

委員会運営に関する規則第17条の2について、現在、地域組織所属の部会員は常設委員候補者に推薦できるが、実行委員候補者は拡大解釈で処理しているとのことで、その是非が問われました。地域本部の総務委員に実施された事前調査でも、実行委員候補推薦に多くの賛成意見が寄せられました。さらに第15条の2にある年齢制限が再度確認されました。

1-2.その他規則運営に関する規則17条の2について「各地域本部からの常設委員と同様に実行委員会

の交通費も負担するか?」に対し、先の事前調査では多くの地域本部の総務委員から、統括本部の支払が妥当との意見が紹介されました。旅費についての議論もありましたが、統括本部も地域本部も財政がひっ迫しているとの理由から、結論は先送りとなりました。

続いて総務委員会では、主に次の3議案の審議および報告がありました。

2-1.国土交通省の地方整備局技術評価支援活動に関する規則の制定について

支援活動に関わる謝金について方針が示され、承認されました。ただし、「謝金の支払可否及び可とする場合の単価等については、各支援組織が属する本会組織(統括本部又は地域本部)が、別に定める金額を上限に決定し、負担する」という記載事項に対し、九州本部ではこれを設けないことを紹介しました。

2-2.懲戒規則の制定について

外部理事への対応を検討することが、継続検討として附議されました。

2-3.2025年度名誉会員等スケジュールについて

1月24日に対象者と地域本部事務局へ調査が入り、対象者は2月7日に統括本部事務局へ回答するとなりました。整合性のチェックについて、地域本部事務局に協力依頼が入ることもある旨が示されました。

所属：西井技術士事務所
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

総務・企画委員会

2024年度活動報告

すえまつ まさのり
総務・企画委員会委員長 末松 正典
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会が所管する業務は下記に示す10項目である。所管項目が多いため、委員12名を3グループに分けて対応している。2024年度も前年に引き続き活動を行ってきた。

- (1) 本部の組織・運営管理に関する事項
- (2) 本部主催行事の企画・実施に関する事項
- (3) 事業計画・報告案作成に関する事項
- (4) 財務の管理に関する事項
- (5) 統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
- (6) 役員会運営及び実施に関する事項
- (7) 会員の顕彰に関する事項
- (8) 会員拡大に関する事項
- (9) 国際的活動に関する事項
- (10) その他、他の委員会の所掌にない事項

1. 第1グループ；(4)(5)(6)(7)を所管。

- ・項目(4)：九州本部の予算と実行状況の把握し、問題ないことを確認した。
- ・項目(5)：熊本で開催される2025年度全国大会準備状況、また地域本部長会議における会議資料取りまとめ中であることを確認した。
- ・項目(6)：県支部長会議や合同役員会に出席し、情報収集と共有化を図った。
- ・項目(7)：フェロー、会長表彰、本部長表彰等にあたり、役員履歴等実績整理に努めている。

2. 第2グループの活動；(2)(3)(5)を所管。

- ・項目(5)：九州本部と各県支部(宮崎、熊本、長崎、大分、鹿児島、佐賀)との連絡会議の場を設定した。この中では講師と演題を整理し分類化を行った。またオンライン化の推進対応について議論した。

3. 第3グループの活動；(1)(8)(9)を所管。

- ・項目(8)：「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本(11月20～21日)」へ出展した。交流会にも参加し情報交換に努めた。また「ぼうさいこくたい2024in熊本」には屋外展示に参加し、ブースに訪問した県副知事には全国大会の紹介を行った。
- ・項目(9)：国際的活動に関する事項については、日韓技術士国際会議が開催された(10月26日(土)～28日(月))。

(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

委員会・部会報告

地域産業支援委員会

活動報告

地域産業支援委員会委員 **末松 正典**
(機械、総合技術監理・北九州)



地域産業支援委員会は、九州経済産業局や県の行政機関等と連携し、地域企業の振興や技術支援の推進を行うことを目指している。取組む内容が多岐にわたるが、最近の活動を紹介する。

1. 地域産業支援委員会活動全体の運営について

技術士会九州本部に対する技術相談を増やすことを目的に、技術士会外の一般技術者向けに各委員の専門分野の技術記事を紹介するサイト「技術士の窓」(<https://www.pekyushu.com/page6>)を九州本部HP内に開設、掲載活動を始めている。1件/月のペースで、1月現在以下の5件だが、他の部会・委員会にも協力頂く予定である。

- ・サービス業へのIEとコンジョイント法の適用(小柳)
- ・頻発する洪水被害は今後も続くのか(山田)
- ・倫理・法規制と企業活動(技術士の立場としての考察)(末松)
- ・蛍光灯の製造輸入禁止に伴うLED化(福田)

・生産性向上を進める過程で矛盾が内在する問題と解決(吉田)

2. 九州本部・技術相談運用の活性化について

ビジネスマッチングの一環として、“廃プラスチックの課題を解決する技術支援”の要請に対して支援者と個別に話し合いを行い、補助金の活用可能性も含め、現在支援活動を継続中である。

3. 外部機関との連携強化の継続について

(1) 一金会：9/6 第258回「コロナ禍で生まれた新業態への挑戦」(株)ワン・ステップ

コロナ禍による大幅に減少した売上高対応のため新商品の開発に着手。産学官連携により感染症対策のエアースペースの発売に至る。

(2) 一金会：10/11 第259回「北陸経済の現状と北陸支局の取組」(中部経産局 電力・ガス事業北陸支局長)

可処分所得・可処分時間は、1位富山県、2位東京。基礎支出は1位東京。「可処分所得－基礎支出」(差)では、1位富山となっている。

(3) 一金会：11/1 第260回「中小ものづくり企業の研究開発型企業を目指した取り組み」(株)鷹取製作所

バルブの製造会社である。新規製品として、高圧水素機器に用いる材料をオーステナイト系ステンレスの代替として、銅合金鋳物の開発に取組んでいる。

(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

研修委員会

九州本部12月度CPD報告

研修委員会委員 **牟田 英昭**
(建設、総合技術監理・北九州)



令和6年11月30日(土)、福岡商工会議所において、12月度CPDが開催され、会場34名、Web24名、合計58名の参加があった。以下にその概要について報告する。

講演1「ノーベル賞の国 スウェーデンについて～主に科学技術史の視点から」

講師：泉 優佳理氏(科学技術コミュニケーション研究所 代表)



日本でみかけるスウェーデンはVOLVO、IKEA、Skypeなどであろうか。高負担高福祉で税金は高いが教育、医療、介護が保障されている。ジェンダー平等は日本と比べものにならない。

リチウム、マンガンなど20以上の元素を発見したスウェーデン人は科学技術の先駆者でもある。特

筆すべきはノーベル賞でスウェーデンの誇りになっている。

長期休暇はしっかり取る。儲からない仕事はしない。150円の公衆トイレはカードがないと利用できない。キャッシュレスが進む社会は、人々の暮らしの中で科学技術によって担保されている。北緯60°は変えられない。その状況下での知恵と行動に、日本が学ぶ点は多い。

講演2「神経内科医からみた健康づくりと社会」

講師：小池文彦氏(みずま高邦会病院 病院長)



脳血管障害と認知症から健康づくりについて神経内科医の視点から考察する。認知症は生活習慣病が関与している。そのための運動は重要。遅筋ではなく速筋を鍛える。1分間早足で歩くことが重要。そしてよく噛むこと！1日遅れの日記を書くのも有効。ゴミ屋敷になる前に、できるうちに片付けておく必要も。また、脳は消費電力が少ない。この意味で、医学と工学は連携すべき。Brain-machine interfaceなどの技術が進んでいき、産業や医学(リハビリなど)に恩恵をもたらすであろう。脳をモデルにエコな社会が作られる。

所属：牟田技術士事務所 代表、西工大 非常勤講師
(E-mail: muta-san@jcom.home.ne.jp)

倫理委員会

2024年度 第3回定例会

倫理委員会委員 くばら まさや
久原 正也
(金属・長崎)



1. はじめに

2024年11月16日第3回定例会を開催した。開催方式は、WEB方式で実施した。

2. 新倫理綱領についての意見発表と意見交換

新しい技術士倫理綱領を題材とした意見発表・意見交換（計10回）は、来年で一区切りとなることから、その後の本定例会における研鑽企画の具体的な実施方針の意見交換を行なった。

決定している新たな研鑽テーマ『法と倫理』の進め方について、第1回定例会で議論した新技術士倫理綱領『8. 法令等の遵守』の振り返りを行った上で、『法と倫理』の研究テーマの進め方案として技術士に関連した法令を体系立てて整理するところから

始めてゆき、特に技術者倫理に関連性が強い法令をピックアップして議論することとした。

企業倫理・組織倫理・安全倫理・環境倫理・情報倫理といったカテゴリに整理した関係法令が示され、発表者は、選定した法令の理由、発表者との関連性などの紹介や事件事例などを盛り込む。

また、選定した法令の制定・改正における時代背景や、現状の課題と改正の必要性などの意見考察倫理的解釈を踏まえながら発表していく。

3. その他の主な協議

中国本部倫理委員会との連携行事は、これから四国本部倫理委員会も参入することを視野に入れており、3地域本部の倫理委員会が持ち回りによる公開型CPDを行なっていく構想がある。

なお、2025年10月は、技術士会全国大会が開催されることを受けて、第3回定例会を併用開催することについて議論された。

所属：久原技術士事務所

(E-mail: hayabusa2.418999138@gmail.com)

防災委員会

「先進建設・防災・減災技術 フェアin熊本2024参加報告」

防災委員会委員 つやま てるお
津山 輝男
(応用理学（地質）・熊本)



今年も日本技術士会九州本部防災委員会を中心に、青年委員会、熊本県支部有志も加わって「**社会を守り未来を作る技術のチカラ21部門**」をスローガンにブース出展を行った。今回で技術士会としては4度目の挑戦であった。開催結果の詳細は先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2024開催委員会のHPに掲載、ご覧ください。

・2日間技術士会出展来訪者数 出展内容

例年通りブース内に防災・教育関連のパネル（ぼうさい国体で好評を得た「Myタイムライン」も追加）を展示しアンケート作戦を実施して、2日間で280余名の来訪者がありこれまで以上の盛況となった。技術士会からは10月21日に「沿岸防災命を守る～想定外をつくらないために～」と題し九州本部

西井康浩氏の講演も行われた。



・アンケート結果

アンケート結果を概述すると、今年は10代学生の来訪が103人と大変多く、「ウェルカモンブース」を標榜した甲斐があった。技術士資格は比較的知られており、また興味ある掲示パネルとして「災害対応」、「防災教育」が挙げられた。

「防災減災」は今や一大産業となっているとは某氏の弁であるが、自然災害で毎年のように多くの被災者が出ていることを忘れてはならない。

参加諸氏のご協力に感謝するとともに、来年度に向けてさらに深化できるフェア参加にしたい。

所属：株式会社日峰測地

(E-mail: tuyama-teruo@hi-ho.ne.jp)

委員会・部会報告

青年技術士交流委員会

2024年度の 普及活動報告

青年技術士交流委員会副委員長
おおもり かずのり
大森 和範
(機械・福岡)



1. はじめに

青年技術士交流委員会では研鑽、普及、交流の3つの柱でメンバーが相互に協力し活動しています。今回はその中の普及活動について紹介します。

2. 普及活動とは

普及活動とは、技術士について多くの方に知って頂き、資格取得を目指してもらうための活動です。

3. 教育機関での講演プログラム

九州地区にある大学や高等専門学校へ技術士が直接出向き、技術士制度に関する説明会を授業の1コマとして学生対象に実施しています。

説明会は、対象学部最適な技術部門の講師を募集・講演グループを編成し、専門分野や各業界への就業経験や知見を元にした専門講演と学生との意見

交換会で構成しています。

4. 2024年度の活動実績

今年度は下記5校に加え新たに1校の準備中です。

<講演実績>

九州産業大学、大分高等専門学校（2学科）、
崇城大学、鹿児島大学、第一工科大学

教育機関関係者の皆様、熊本、鹿児島県支部関係者の皆様、講演者の皆様 ご協力に感謝いたします。

5. 受講者アンケートより

①技術士制度について理解が深まった。②自分のキャリアについて考えることができた。③技術士を目指したい。等前向きなコメントが多く十分な活動成果を感じています。又、現在在学中の複数の学生が技術士第一次試験を自主的に受験し合格されてます。



所属：富士通株式会社
(E-mail: oomori.kazunori@fujitsu.com)

北九州地区支部支援委員会

2024年度下期活動 実施報告

北九州地区支部支援委員長
さかた かずのり
坂田 一則
(金属、総合技術監理、博士(工学)・北九州)



1. はじめに

北九州地区支部支援委員会の2024年度下期のCPD研鑽会を中心とした活動実施の概要を報告する。

2. 2024年度下期の主な活動実施報告

【第15回公開シンポジウム】

2024年12月14日(土)13時から九州本部主催で北九州市生涯学習総合センター3階ホールを会場として、「今、この地域で技術文化のパッションを繋げ!」～人口減少時代、自分のルーツを考え技術を伝える～をテーマに、第一部で深堀 聡子氏(九州大学 未来人材育成機構教授)の問題提起、第二部において産・官・民・技術士からの取組みを紹介し、第三部ではパネルディスカッションを実施した。

会場参加46名(北九州地区支部34名、九州本部

関係6名、講師4名、市民2名)、Web参加16名(長崎県支部1名、大分県支部2名、千葉県1名、三重県1名、北九州11名)、合計62名の参加で、熱い議論を行うことができた。

【合格祝賀会及び忘年会】

公開シンポジウム終了後、会場を小倉リーセントホテルに移して、技術士合格者祝賀会と会員相互の交流事業として忘年会(懇親会)を技術士35名、合格者2名、シンポジウム登壇者3名(計40名)の参加を得て開催した。合格者の苦労談や抱負を伺うことができ、参加者の交流も深まった楽しいひと時であった。



写真1. 集合写真(合格者祝賀会及び忘年会)

所属：坂田一則 技術士・労働安全コンサルタント事務所 (E-mail: ksakata@bronze.ocn.ne.jp)

役員改選・全国大会

2025年度 役員 改選・全国大会

九州本部事務局長 **寺地 守**
(建設・福岡)



昨年11月、第3回合同役員会（会場31名、WEB 2名、欠席5名）を開催しました。主な議題は、次年度の予算収支、役員体制などです。（議事録は本部HP会員専用に掲載）

1. 本年10月25日～28日熊本で全国大会を開催します。今回その収入（参加費、募金など）、支出（会場借料、資料印刷、本会・分科会、また交流会・見学会の経費など）を試算し、計上しました。近年九州本部収支は厳しいながらも、九州各地から多数の参加者、協力を得て是非成功裡に収めたいものです。また、北海道から沖縄までの会員を歓迎し、円滑に運営すべく実行委員会にて鋭意準備中のところ です。

2. 次期役員体制の検討を行いました。技術士会では、多くの会員が活動に参加できるよう、役員の任期は2年としつつ、さらに年齢制限や再任の限度

を定めております。正会員は、入会年数や活動履歴など一定歴や要件のもと誰でも役員幹事に立候補し、また投票ができます。日常のメール情報、立候補の案内などが来ていない方は、統括本部への会員登録が古いなどの問題もあります。この機会に登録を確認し【4/21までに全ての会員の投票参加】をお願いします。

3. 全国大会準備については、札幌にてプレ案内を行い、現在前日の関連会議の意向を收集整理中です。また大会当日午前の分科会準備中です。HPに全体スケジュールをアップしましたので確認願います。

4. 最近の対外活動の活発化、HP運営などに対応し、事務局業務の手引きを改正しました。主な改正点は、私有車利用の交通費補助が暫定的運用から通常運用の扱いとする。論文発表者への謝礼規定を実態に合わせる。協賛団体への扱いを変更するなどがあります。

5. 九州本部から参加している理事会、総務委員会、社会委員会等から主な動きの報告がありました。役員会、県支部長を通じて会員への情報共有を進めてまいります。2025年度につきましても事務局運営にご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

所属：日本地研株式会社

(E-mail: terachi@chicken.co.jp)

みどり部会

活動報告

みどり部会長 **山部 鉄朗**
(森林・福岡)



1. はじめに

令和6年11月22日に九州本部みどり部会現地見学会を実施したので報告します。

2. 福岡の技術職員によるJA糸島の農業の取組についての説明、糸島市志摩の農家での現地見学

1) まず、『福岡県とJA糸島の農業のとらえ方』について、福岡県の福岡普及指導センターの古澤典子氏と古屋隆盛氏の両名から、DX推進や集約化による生産性向上、ブランド化、リカレント教育による人材育成、ワンヘルス、定住環境の持続性等の農業振興の方針の重要性の説明がなされました。また、糸島については対馬暖流による温暖な気候から、野菜や果樹、花卉など園芸作物の栽培に適し多種多様な農畜産物が年間を通じて生産されていることが紹介されました。

2) 現地視察1：JA糸島柑橘部会 吉留誠氏の園地

『山下紅早生』26年生 高畝マルチ栽培

温州ミカンの山下紅早生は、平畝栽培では普通の糖度だが、高畝栽培により、根域を制限し水分を極端に抑えることで、糖度が増して『紅まるくん』というブランドで主に福岡市内のデパートに販売されています。その一方で、高ストレスをかける為寿命が短くなるデメリットがあり、また近年は温暖化による温度障害などの厳しい環境下での水のコントロールなど気が抜けないとの吉留さんの説明を受けました。

3) 現地視察2：JA糸島花き部会 武藤寛和氏の園地

武藤氏は、種苗メーカーでの勤務経験と常に創意工夫によりハウス栽培でトルコキキョウやダリヤ、アスターを生産されていて、令和2年には福岡県トルコキキョウ園地の部で最優秀賞を受賞した若手生産者です。しかし、そんな武藤さんの園地でも昨年は猛暑の影響で12月出荷予定が2か月早まる等気候変動の影響や資材価格上昇で経営環境が悪化している。今回のお二人は厳しい経営環境の中創意工夫で収益を確保されていますが、それでもサラリーマン並の労働環境と比べまだ厳しい現状に思えました。

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店

(E-mail: angle26of26repose626@gmail.com)

委員会・部会報告

建設部会

現地見学会報告

建設部会幹事・事務局次長 藤島 義久
(建設、総合技術監理・福岡)



建設部会では令和6年11月13日に現地見学会を開催しました。以下にその概要を報告いたします。

今回のテーマは供用開始前を視察するというところで、完成を間近に控えた福岡空港滑走路増設事業とその関連施設事業及び国道201号八木山バイパス4車線化事業を対象としました。

絶好の見学日和の中、30名のご参加をいただき博多駅筑紫口を出発しました。

(1) 福岡空港

最初に令和7年春に運用開始予定の増設滑走路を睨んで取り組まれている国際線ターミナルの増改築事業の概要を福岡国際空港株式会社経営企画本部の田中部長からご説明いただきました。激増するインバウンド需要に対応すべく到着ロビーの増床、免税店エリアの拡張、コンコースの延伸など利便性向上

と魅力ある施設づくりを目指すものでした。

引き続き、九州地方整備局福岡空港整備推進室の小田室長の誘導の下で制限区域内に進み、土木工事がほぼ完成した滑走路増設の現場に到着しました。航空機の轟音の中、事業の説明を聞きながら二本の滑走路が多頻度に運用される光景を想像しました。

(2) 国道201号八木山バイパス4車線化事業

福岡空港を後に、一路同バイパス事業最初の見学地である福ヶ谷橋下部工補強工事に向かい、九州地方整備局北九州国道事務所の中村建設監督官からその概要を聞きました。急峻な地形の中で50mもの高さは圧巻でした。なお、中村監督官からは次の完成間近の九郎原トンネル工事のご説明もいただきました。

同事業の最後の見学地として本年度開通予定の笹栗本線料金所の概要を西日本高速道路株式会社北九州工事区の姥工事長からご説明いただきました。

ちなみに本事業は公共事業と有料道路事業を組み合わせ早期に整備を図るため、同社も事業主体の一翼を担うものです。

以上、関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社
(E-mail: pfujhima0720@yahoo.co.jp)

環境部会

活動報告(見学会)

環境部会長 松田 研志
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の3部門からなる部会です。

本稿では、2024年12月12日(木)に実施した環境部会見学会について報告いたします。参加者数は17名でした。

2. 福岡地区水道企業団 牛頸浄水場、水質センター

今回の見学会では、移動中に山口幹事に牛頸浄水場の設立背景と概要を説明して頂きました。

牛頸浄水場では、まず浄水場の概要と水質センターの概要を平井係長、中岡係長に説明して頂きました。

その後、浄水場を着水井から急速ろ過池まで見学し、水質センターの種々の測定器の見学と説明を受

けました。水質測定と浄水場操作の連携を学びました。

3. 福岡バイオフードリサイクル株式会社

移動中に真鍋幹事に食品リサイクルの背景と施設の概要を説明して頂きました。

福岡バイオフードリサイクル株式会社では、まず食品リサイクルの概要とバイオガス発電事業の概要を瀧本工場長と加藤様に説明して頂きました。

その後、食品廃棄物の受入設備、発酵設備、ガスホルダ、ガスエンジン発電設備の見学と説明を受けました。食品廃棄物が電気に変換されるプロセスを学びました。



所属：松田技術士事務所
(E-mail: matsu1@docomonet.jp)

支部だより

佐 賀

第2回技術懇話会

～環境の保全による
低炭素社会の実現～

副支部長 こ が ひろふみ
古賀 浩史
(建設・佐賀)



令和6年12月5日(土)に「令和6年度第2回技術懇話会」をメートプラザ佐賀で開催しました。佐賀県支部では、会員および県内外の技術者のスキルアップと親交を深める目的で、春と秋に技術懇話会(CPD)を開催しています。現在は「環境の保全による低炭素社会の実現」を大テーマとして懇話会を開催しており、今回は会場参加者が30人、試験的にweb配信を行いweb参加者1人の参加で開催しました。

テーマ1：木材利用による低炭素社会への貢献と課題

講師：株式会社九州構造設計 宮副一之

2050年のカーボンニュートラルに向けて各分野で積極的なCO2削減対策が必要だが、それに加えてCO2吸収源の積極的な活用が不可欠であるとの説明がなされました。2003年から活動が続けられて

いる「木材利用研究会(佐賀)」の成果の一つである木杭設計マニュアルの整備や、それによる施工事例の紹介がされました。また、高齢化しCO2を吸収しづらくなった木を伐採し、木杭として利用することでCO2を吸収したまま地中に埋設できることも説明いただきました。

テーマ2：循環と継承。佐賀の10業種11社がともに持続可能なものづくりの本質を追う

講師：SAGACOLLECTIVE協同組合 山口真知

SAGACOLLECTIVEは、家具、陶磁器、お茶、海苔などの製造販売を行う11社で構成された協同組合です。当初の活動目的は海外販路の開拓でしたが、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、各社がそれぞれの事業活動の全体像を意識することになったということです。現在は「エシカル(人にやさしい社会にやさしい地球にやさしい)」が活動の心構えになっています。カーボンニュートラルの取り組み事例として、CO2排出量の把握、各社でのCO2排出量の低減に加え、地元由来のカーボンクレジットを選定したカーボンオフセットの実施を紹介いただきました。

今後も継続的に技術懇話会(CPD)を開催し、技術力向上と異業種交流に貢献したいと考えています。

所属：株式会社親和テクノ佐賀支店
(E-mail: koga@shinwa-techno.co.jp)

長 崎

創立10周年記念誌 発刊について

事務局長 おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



長崎県支部は、2014年1月に統括本部理事会において設置が決定され、6月の設立大会を経て設置されました。爾来2024年に創立10周年を迎え、特別な催しは実施しないことになりましたが、記念誌を発刊することになり、支部長以下5人の編集担当が招集されました。

昨年7月初めに初回の編集会議を行い、その後計7回長崎市の扇精光コンサルタンツ(株)の会議室で会合を持ち紆余曲折を経て、ようやく今年2月に配布に漕ぎ着けました。

記念誌の内容については、支部長の挨拶から始まり、設立の経緯、関係各位の祝辞、会員の寄稿、10年の歩み、支部主催の研修会・見学会記録、『技術士だより九州』への投稿記録等などから構成しました。

冊子の編集等経験のない素人集団の編集作業となりましたが、何しろ乏しい支部の財政の中、専門家の助けを受けることも叶わず、冊子の色遣いや空欄のできないレイアウトの工夫などに苦慮しました。また、特に氏名の漢字やその他の記載に誤りがあってはならないと印刷所へ回す前に何度もチェックを行いました。最後まで誤植がなくなることはありませんでした。記念誌発刊に接し感じたことは、当初写真等を余すことなく配置した魅力ある記念誌にすることを目標としましたが、そのスキルや予算もない中で理想を追うことは難しいというものでした。今回の改善点・反省点を20周年、30周年・・・記念誌へと活かしていければと思っております。

最後に、発刊に際して祝辞を寄せていただきました佐竹九州本部長、中尾長崎県土木部長、また、快く資料を提供いただきました神奈川県支部、埼玉県支部、鹿児島県支部をはじめ関係各位の御厚意に心から謝意を表します。また、陣頭に立ち資料の収集に奔走された山口長崎県支部長に加えて、扇精光コンサルタンツ(株)の山本技術士に編集作業において、大変お世話いただきましたことに感謝申し上げます。

所属：五省コンサルタント株式会社長崎事務所
(E-mail: s.oria@zb4.so-net.ne.jp)

支部だより

大 分

大分県支部 新年互礼会 兼中間報告会開催の報告

大分県支部幹事(広報担当) **あべ つとむ**
安部 勉
(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部と大分県技術士協議会では毎年恒例となっている「新年互礼会兼中間報告会」を新年早々に開催しています。今年は1月25日にトキハ会館において33名の支部及び協議会会員参加のもと開催されました。

中間報告会に先立ち、CPD研修会として、九州本部倫理委員会の植木委員より、「技術者としての幸福をえるために考えておくべきこと」の演題で講演をいただきました。技術者として社会の課題を解決する際、解決するための方向性の是非について、技術者倫理を判断の拠り所としなければならない、ということを確認しました。

中間報告会は、湯地支部長による開会挨拶で始まり、今年は第51回技術士全国大会が熊

本県で開催されることから、大会の成功を目指して九州本部が一致連携して取り組むとのことで、大分県支部でも多くの参加者を募り、大会の機運を高めようとの事でした。その後、佐藤事務局長による大分県支部の2024年度活動報告に続き、九州本部各委員会の活動報告が行われ、技術士の社会的貢献として、地域産業支援委員会による「技術士の窓」が開設された等の報告がありました。

報告会後の互礼会は竹内協議会会長の挨拶の後、安藤氏による乾杯の発声で始まり、各テーブルで活発な情報交換が行われていました。最後に、松原協議会副会長による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

CPD報告

長 崎

長崎県支部 第4回CPD研修会報告

幹事(広報担当) **しみず まさあき**
清水 正明
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



令和6年度第4回CPD研修会が1月29日(水)諫早市の「諫早商工会館」で54名(対面29名、リモート25名)の参加の下、開催されましたので報告します。

演題1「地盤防災に関する研究への取り組みと異分野連携」A1-1

講師 杉本 知史氏 長崎大学大学院総合生産科学域(准教授) 博士(工学)

○斜面災害を予測するため、原位置モニタリングによる観測と、それらのデータに基づく力学的安定性評価手法を組み合わせることで、予測の実現性が上がる事例が紹介された。また、城郭石垣保全に関する研究内容と遠隔モニタリングの実施において、電気電子工学等、異分野と連携した取り組みが紹介された。

演題2「半導体微細加工論」A1-4

講師 岡 治氏 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) 応用理学部門

○半導体とは、何かについて、簡単な物理から入り、必要なプロセスの紹介、関連する装置メーカーや一般的な半導体関連技術紹介があった。また、どのように製造技術が駆使されているのか分かりやすい説明があった。

日本の半導体業界が再復活出来るかどうか、環境問題(水資源保全)への取り組みなど、業界が抱える「課題」が紹介された。

演題3「新たな水族館教育への挑戦」A1-4

講師 高田 浩二氏 海と博物館研究所(所長) 博士(学術)

○水族館は、海洋や環境、理科中心の教育を得意としてきたが、教育を受ける側もそれを期待していたと思われる。水族館の持つ教育力はその範囲にとどまらない。本講演では、水族館が持つ多様な専門性の中で自然科学に関する資料を収集、保管し、多様な教育プログラムへの実践が紹介された。また、演者が水族館、大学そして現職に至る約40年間取り組んで来た事例が多数紹介された。

所属：株式会社高松設計コンサルタント
(E-mail: natsc-se6@marble.ocn.ne.jp)

鹿児島

第45回 CPD講演会報告

研修副委員長 **つねよし 恒吉** **あきひこ 明彦**
(農業・鹿児島)



1. はじめに

2025年2月11日(火)、鹿児島市勤労者交流センターで第45回CPD講演会を開催した。県内外からオンライン受講者2名を含む34名(うち会員30名)の参加を得た。

講演1.『土砂災害研究に携わって50年』下川悦郎氏 (鹿児島大学名誉教授 農学博士)

奄美群島から県本土迄約600kmの広範囲に広がる鹿児島県は、台風や梅雨前線豪雨による風水害や地震、また桜島に代表される火山噴火災害等多くの人命が犠牲となる自然災害に見舞われてきた。これらの災害の背景として火山噴出物に広く覆われている等の自然条件や、都市化による過密や過疎、高齢化等の社会的条件がある。本県ではこれらの辛い体験をもとに災害対策として、自治体による早めの警戒避難対応や避難所の設置といったソフト面、河道を広げる河川改修或いは斜面の崩壊防止工事等のハー

ド面、両面の整備を進めることにより被災地域の防災力の向上が図られた。先生は研究課題は現場に求めることを信条として土砂災害発生地へ数多く足を運び発生の過程を探ると共に崩壊発生場の予測手法を提案されている。

講演2.『高校及び高等専門学校の知財学習とその支援事業』満丸 浩氏(第一工科大学 工学部長 機械システム工学科教授 技術経営修士)

日清食品により世界初のカップ麺「カップヌードル」特許や商標或いは実用新案権を有しているというインパクトのある話で講演が始まった。知的財産権は大きく知的創作物についての権利と営業標識についての権利に分類され、これらはそれぞれ出願の日から特許権については20年間、実用新案権については10年間等、保護される期間が決められている。日本は1990年頃には知的財産が世界一位を保持していたがその後低下してきたため、2002年には知的財産戦略大綱を決定し知的財産基本法が成立するなど国を上げて推進している。また、工業・農業等の専門高校において2007年度から「学習指導要領」の見直しに反映させる等、国は高度知財人材の育成に力を入れ裾野の拡大を図っている。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail: at3459@nils.ne.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和6年11月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 桑原 茂雄	建設	株式会社ウエスコ
福岡	正会員 鐘 廣喜	建設	日進コンサルタント株式会社 上下水道 総合技術監理
福岡	正会員 中村 星朗	建設	有限会社ITテクニク設計部
佐賀	正会員 野中 寿人	建設	九州技術開発株式会社設計部
福岡	正会員 原田 昌宏	建設	株式会社西部技術コンサルタント 総合技術監理
大分	準会員 山下 雅史	金属	JX金属製錬株式会社 佐賀製錬所技術部
熊本	準会員 高橋 裕介	建設	株式会社ワコー開発事業部

〈令和6年12月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
熊本	正会員 笠田 雄司	農業	熊本県県央広域本部上益城 総合技術監理 地域振興局農林部

(所在地)	準会員	(氏名)	(部門)	(勤務先)
鹿児島	山口 博文	建設	株式会社南日本技術コンサル タンス技術部	
福岡	準会員 山本 富雄	建設	株式会社ツツミ技研設計部	
福岡	準会員 佐野 玄周	情報工学	パナソニックコネクスト株式会社 回路形成プロセス事業部シ ステムソリューション開発部	

〈令和7年1月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 住友 雄太	機械	日本製鉄株式会社 設備設計・建設技術センター プラント設計部
福岡	正会員 粟津 幸平	建設	栗津技術士事務所 総合技術監理
福岡	正会員 池内 俊裕	建設	株式会社フジタ西日本支社 総合技術監理 土木技術積算部
福岡	準会員 別府 真司	機械	株式会社メイテックフィル ダース福岡営業所

技術士全国大会

IPEJ ANNUAL CONFERENCE

第51回

熊本

九州沖縄

KUMAMOTO
CASTLE

ASO

火の国

-森の都-
熊本市

水の国

SUIZENJI

大会テーマ ▶▶ かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ
集え～火の国・水の国～

会
期

2025
10/25_土-10/28_火

大会構成

DAY1

■関連行事 ■ウェルカムパーティ

DAY2

■第1～第4分科会
■大会式典 ■分科会報告 ■記念講演
■交流パーティ ■パートナーズツアー

DAY3/4

テクニカルツアー

日帰り / 一泊二日

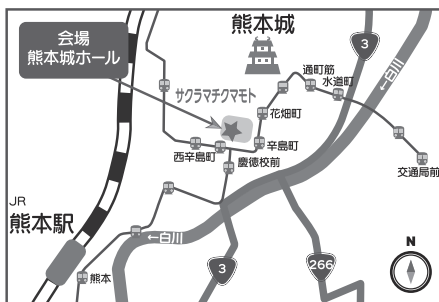
会
場

熊本城ホール

〒860-0805
熊本市中央区桜町3番40号

<https://www.kumamoto-jo-hall.jp>

ウェブサイト
QRコード



10月25日 (土)	関連行事	委員会・部会による連絡会議・専門部会	熊本城ホール3F 会議室他
	ウ ェ ル カ ム パ ー テ ィ		熊本城ホール3F
10月26日 (日)	第1分科会	防災 ー連携のチカラー 「経験を活かす・備える」	熊本城ホール3F 会議室
	第2分科会	青年 ーミライのチカラー 「ミライを支える技術者」	
	第3分科会	地域 ー高まるチカラー 「ハイテク産業の集積と地域の未来」	
	第4分科会	人材 ーはばたくチカラー 「人口減少社会における人材育成」	
	大 会 式 典		熊本城ホール2F シビックホール
	分 科 会 報 告		
	記念講演	九州大学名誉教授・熊本大学客員教授ー松田泰治氏ー 『2016 年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～』	
	交 流 パ ー テ ィ		
パートナーズツアー	山鹿灯籠民芸館・八千代座ほか		県北コース
10月27日 (月)	テクニカルツアー A	益城町・南阿蘇村・熊本地震震災ミュージアムほか	日帰りコース
10月27日 (月) 10月28日 (火)	テクニカルツアー B	人吉・球磨 2020年九州豪雨災害遺構・人吉温泉ほか	1泊2日コース

※プログラム及びツアーの内容は都合により変更する可能性があります。

記念講演

CEREMONY

▶▶▶ 2016年熊本地震の教訓に学ぶ ～更なる創造的復興に向けて～

2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、
新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。

専門分野：地震工学・都市防災・リスクマネジメント

九州大学名誉教授・熊本大学客員教授
TAJIMA ZDA 松田 泰治 氏



お問い合わせ

CONTACT

公益社団法人 日本技術士会九州本部 事務局 / 第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル 6階D2号室
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443
EMAIL pekyushu@nifty.com WEBSITE <https://www.pekyushu.com>



協賛団体会員

.....[福岡].....
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)カミナガ
 (株)建設環境研究所九州支社
 (株)建設技術研究所九州支社
 (株)久栄総合コンサルタント
 産業開発コンサルタント(株)
 (株)サンコンサル
 ジーアンドエスエンジニアリング株式会社
 第一総合技術(株)
 第一復建(株)
 大成ジオテック(株)
 大和コンサル(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 (株)テクノ
 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)
 西日本技術開発(株)
 西日本コントラクト(株)
 (株)西日本測量設計
 日鉄鉦コンサルタント(株)九州本社
 日本工営(株)福岡支店
 日本地研(株)
 富洋設計(株)九州支社
 平和測量設計(株)
 (株)ヤマウ
 (株)唯設計事務所

.....[北九州].....
 (株)永大開発コンサルタント
 (株)松尾設計
[佐賀].....
 朝日テクノ株式会社
 (株)エスジー技術コンサルタント
 九州技術開発(株)
 (株)九州構造設計
 (株)コスモエンジニアリング
 新栄地研(株)
 (株)親和コンサルタント
 精工C&C(株)
 (株)トップコンサルタント
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 シマウチエンジニアリング(株)
[長崎].....
 扇精光コンサルタンツ(株)
 (株)実光測量設計
 大栄開発(株)
 太洋技研(株)
[熊本].....
 旭測量設計(株)
 (株)ARIAKE
 (株)九州開発エンジニアリング
 (株)熊本建設コンサルタント
 (株)建設サポートセンター
 (株)興和測量設計
 (株)ヒライ・コンサルタント
 (株)水野建設コンサルタント

.....[大分].....
 九建設(株)
 協同エンジニアリング(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
 東洋技術(株)
 東洋測量設計(株)
 西日本コンサルタント(株)
 (株)日建コンサルタント
 日進コンサルタント(株)
 (株)富士設計
 松本技術コンサルタント(株)
[宮崎].....
 (株)アップス
 九州工営(株)
 (株)ケイディエム
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)白浜測量設計
 南興測量設計(株)
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)東九州コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
[鹿児島].....
 (株)久永コンサルタント
 (株)南日本技術コンサルタンツ
 (株)アジア技術コンサルタンツ
 大福コンサルタント(株)

次回の予告 (第144号 令和7年7月)

○2024年度 九州本部第4回CPD

編集後記

埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故は、インフラ老朽化という課題を改めて浮き彫りにしました。老朽化した下水道管の破損が原因と見られていますが、同様の事故は今後も起こりうるでしょう。インフラの老朽化は、経済活動にも大きな影響を与えますが、インフラの更新には莫大な費用がかかります。人口減少や財政難が進む中で、どのように財源を確保し、効率的に更新を進めていくのか。私たちは、将来世代にツケを回さないためにも、今こそ真剣に考えなければなりません。また、今回の事故は、地下インフラの重要性を改めて認識する機会となりました。普段は目にすることのない地下インフラですが、私たちの生活を支える重要な役割を担っています。私たちは、目に見えないインフラにも目を向け、その維持管理に努める必要があるでしょう。

(松田)

編集：広報委員

【福岡】久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
 原田 正則、松田 敦
 【北九州】宮崎 照美 【佐賀】合志 勉
 【長崎】清水 正明 【大分】竹内 一博
 【熊本】沼地 英二 【宮崎】満留 康裕
 【鹿児島】高畦 博

発行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
 (博多石川ビル6階D2号室)
 九州本部： ☎(092)432-4441
 FAX(092)432-4443
 E-mail:pekyushu@nifty.com
 九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
 印刷：株式会社チューエツ